

国際ロータリー第2660地区
ガバナー

大谷 透



ロータリー財団は6代目のR I 会長アーチ・クランプが「基金をつくり、世の中のために良い事をしよう」と提案して始まりました。そして彼は、この基金にロータリーの名を刻み、ロータリー精神を吹き込むならば、文明の続く限り輝き続け、ロータリーを不滅のものにするだろう、という意味のことを述べています。

ロータリー財団の使命は「人道的、教育的プログラムを通じて、ロータリーの綱領を遂行し、世界平和を達成しようとするロータリーの努力を支援すること」です。具体的には、水の問題、飢餓・貧困の救済、識字率の向上、病の克服などを、そして最優先事項としてポリオの根絶を強調事項として提唱しています。

これらの問題を少しでも解決することが、平和に一歩近づく事だと考えられるからです。そして、もう一つ世界からロータリーが期待されているのは world peace fellow の育成です。これらを纏めて一言で言うならば、ロータリーは「武力によらない平和」の実現を夢見ているのです。そして「夢をかたちに」という標語は昨年度で終わったわけではないのです。ロータリーの平和奨学金によって、平和的手段による紛争解決のための専門的技術と心を身につけた world peace fellow 達は、今も地球の何処かで日夜努力を惜しまずに働いています。

歴代の日本のロータリアンの方々もこの様なロータリー財団の活動方針を支援して、長年にわた

り不況の波を被るまでは、全世界の25%にも上る年次寄付を行ってまいりました。この事は世界に於ける日本の道義を高めることになり、日本は国際正義の実現と、世界平和の達成にも貢献しているとの評価につながっているのです。

今、世界的な不況のあおりを受けて、期待されている歩みから遅れをとっています。我々の財団です。今年度もあなたによってロータリー精神を吹き込んで頂ければ、すぐにもとの輝きを取り戻すことでしょう。

R I は11月5日を含む1週間を「世界インターアクト週間」と定め、ロータリアンとインターアクターの高校生が一緒になって国際的な活動に参加するように推奨しています。例年この時期に年次大会を開催するのですが、受験勉強の都合で今年の当地区は9月27日に開催しました。

インターアクトクラブは、頭脳の柔軟な若い時に、ロータリーが大切にしている国際理解と世界的友好精神を、ロータリアンと一緒に活動する事により、身につけてもらおうと、学校の協力を得て提唱ロータリークラブの存在する地域の高校に作られたクラブです。子供は親や教師のいうとおりににはなりません。大人のするとおりに育っていきません。ロータリアンのサービスの精神と職業に対する姿勢を分かち合うのです。若者は宝であり、未来です。「ロータリーの未来は貴方の手の中にあるのです。」